

# 初 年 次 教 育 学 会

ニュースレター 第 8 号

Japanese Association of First Year Experience  
at Universities and Colleges

初年次教育学会 事務局分室

〒162-0801  
東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター  
TEL: 03(5937)0473 FAX: 03(3368)2822  
E-mail:jafye-office@bunken.co.jp

事務局  
法政大学 藤田哲也研究室内

## 今号の内容

- |                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 巻頭言             | 5. 第 9 回大会について           |
| 2. 事務局からのお知らせ      | 6. 2015 年度「初年次教育実践交流会」報告 |
| 3. 学会誌編集委員会からのお知らせ | 7. 編集担当より                |
| 4. 第 8 回大会開催報告     |                          |

## 1. 巻頭言 あなたも「初年次教育実践交流会」を始めませんか

会長 安永 悟 (久留米大学)

初年次教育学会では、会員の皆さまにとって、より身近な学会、皆さまと共に創り上げる学会をめざして、2014 年度から「初年次教育実践交流会」（以下、実践交流会）を全国各地で開催しています。お陰様で、この 1 年半の間に 7 回の実践交流会を開催することができました。この場をお借りして、開催にご尽力いただきました皆さま、ご登壇いただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。

これまで開催した実践交流会がいずれも盛会であったことは、会員の皆さまが、気軽に集える場を求めている証だと考えています。地域での活動を活性化する起爆剤として、これからも全国各地で実践交流会を開催したいと考えています。実践交流会を開催したいと考えている会員の皆さま、是非、学会事務局までご一報ください。「地域活動活性化委員会」（責任者：藤本元啓理事・2016 年 4 月より崇城大学教授）が中心となって積極的にサポートさせていただきます。

ただし、実践交流会の活動は始まったばかりです。学会が中心となり、各地で、実践交流会を単発的に開催するという現在の姿を必ずしも理想とはしていません。小さなグループで構わないので、初年次教育の関係者が気軽に集える継続的な実践交流会が、全国各地に立ち上がり、全国のどこかで毎週のように実践交流会が開催されるようになることを期待しています。さらには各地の交流会同士が相互に連携・協力することを通して、初年次教育の新しい「うねり」が地域を基盤とした活動から沸き上がることを期待しています。このような活動を通して培われたエッセンスを全国大会で報告していただき、全国の会員と幅広く共有できるようになることを一つの理想としています。

そのためにも、全国各地で活躍されている会員の皆さまに、最初は 2・3 人の小さなグループでも構いま

せんので、気軽に集える、身近な実践交流会を始めていただきたいと思います。実践交流会を始めたことを広く発信していただき、継続的に開催していただくと、初年次教育に関心のある人々が集まってきます。このようにして各地にコアとなる実践交流会が形づくられることを期待しています。

実践交流会を立ち上げるには仲間が必要です。身近に会員がいれば、まず相談してみてください。そこから活動が始まります。身近に会員がいなければ、既に運用が始まった初年次教育学会のマイページを活用してください。検索機能がありますので、近くにお住まいの会員を知ることができます。

実践交流会は地域の実情や、集う仲間の要望に応じて自由に企画・運営していただければと思います。取りあげる内容は初年次教育に関係していれば幅広く柔軟に考えられて構いません。参加者も初年次教育に関心のある方であればどなたでも参加できるようにしてください。

早いもので明日から新年度が始まります。初年次教育を担当する者にとって新入生との新しい出会いに期待が膨らむと同時に、新入生との新たな「格闘」に少なからず緊張も覚える時です。新たな出会いと、そこから紡ぎ出された実践を、気軽に語り合える「初年次教育実践交流会」が、新年度も全国各地で開催されることを心より期待しています。

\*

最後に、2015年度に開催された実践交流会うち、筆者が直接関係した久留米大学と玉川大学の事例を簡単に紹介しておきます。

久留米大学での実践交流会は、5月9日（土）の午後、久留米大学御井キャンパスで開催されました。この実践交流会は、筆者の研究室が定期的で開催している「授業づくり研究会」を、学会から「初年次教育実践交流会」とお認めいただいて開催したものです。本実践交流会では、西田佳代先生（鹿本医師会看護学校）による実践報告「協同学習による活動性と成績を高める授業づくり」と、土屋麻衣子先生（福岡工業大学）による実践報告「協同学習で英語苦手意識をもつ学習者のモチベーションを高めよう！」がありました。これからも「授業づくり研究会」を開くたびに、実践交流会として学会にお認めいただき、学会員の皆さまに交流の場の一つとして提供していきたいと考えています。

一方、玉川大学での実践交流会は6月20日（土）午後、新棟「大学教育棟2014」で開催されました。本交流会は学会主催であり、関東地区で初めての開催となりました。本実践交流会は「アクティブ・ラーニングを活用した初年次教育の実践」をテーマに、玉川大学の菊池重雄先生による講演「ラーニング・コモンズを活用した初年次教育」と、それに関連した伊藤良二先生（玉川大学）と小島佐恵子先生（玉川大学）による2件の実践報告がありました。引き続き、「授業づくり研究会 in Tokyo」と銘打ち、協同学習に関する筆者によるワークショップと、根上明先生（玉川大学）による実践報告「協同をベースにした体験学習型授業における学生の学習態度の変化」を行いました。本実践交流会に合わせて、新棟「大学教育棟2014」内に開設された素晴らしいラーニングコモンズや図書館の見学会も催され、内容の濃い実践交流会となりました。

## 2. 事務局からのお知らせ

事務局長 藤田 哲也（法政大学）

いつもお世話になっております。事務局長の藤田哲也（法政大学）です。2015年の9月に事務局を引き

継いでからというもの、安永会長や前事務局の方々を初めとする理事の皆さんや新事務局のメンバー、事務局分室のスタッフに支えられながら、円滑に学会を運営するべく日々奮闘しています。さて、この半年間で学会にも新たな動きがございましたので、改めてお知らせいたします。

・マイページの運用を開始いたしました。

これまで、所属機関やメールアドレスを変更するためには事務局に連絡する必要がありましたが、現在はマイページ内においてご自身で手続きすることができます。また、会費の納入状況も確認できますので、うっかり未納のまま…ということも減らせますね！

なお、2016年度の年会費については、後日請求書を送らせていただく予定です。

マイページには、会員検索機能もございます。たとえば皆様自身の活動地域に、どんな方が会員でいらっしゃるのかを調べることができます。これは会員相互の連携をやすくし、地域活動を活性化させることを狙ったことです。個人情報の取り扱いも気になる場所だとは思いますが、学会コミュニティの醸成という趣旨をご理解いただき、ご所属や連絡先などの情報を、差し支えない範囲で「公開」に設定していただけるとありがたく存じます。

・学会HPをリニューアルいたします。

目下作業中です。よりわかりやすく、迅速に種々の情報を提供できるように努力いたします。作業が終了しましたら、メーリングリスト等でお知らせいたします。

関連して、第9回大会の発表申込・参加申込も新しい学会HPで受け付けることになりました。そのために、既にお知らせしていた「4月中旬」ではなく「5月の中旬以降」をめぐりに大会発表申込を開始するよう、予定が変更になりました。ご迷惑とご心配をおかけして申し訳ございません。大会発表申込の受付を開始する準備が整いましたら、これもメーリングリスト等でお知らせいたします（発表をせず、大会に参加するだけの方の申込開始は例年通り7月頃になる予定です）。

その他、何かご不明な点などございましたら、お気軽に事務局にお尋ねください。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

### 3. 学会誌編集委員会からのお知らせ

編集委員長 笹金 光徳（高千穂大学）

2016年3月15日発行の初年次教育学会誌第8巻第1号が、すでに皆様に届いているかと存じます。次号(第9巻第1号)の編集・発行および原稿募集については、第8巻第1号の巻末に詳細が記載されておりますが、その概略を記します。

(1) 次号の発行時期について 2017年3月中旬の発行を予定しております。

(2) 投稿論文の締切について 第9巻の投稿締め切りは**2016年5月末日**となります。ただし、学会誌の編集規程および論文の執筆要領に従っていない場合には、投稿論文を受領することはできません。そのような理由で返戻された論文を修正した上で再投稿する場合の期限も**5月末日**となります。提出期限間に投稿された論文については、規程・要領に従っているか否かの確認が期限後となり、結果的に査読対象から外れることもあり得ます。従いまして、作成した論文が編集規程および執筆要領に則っているかどうか確信が持てない場合には、3週間程度の余裕を持って投稿することをお勧めいたします。

(3) 原稿の執筆、投稿、その他詳細について 初年次教育学会のホームページに記載している「初年次教育学会誌執筆要領」「執筆テンプレート」をご参照ください。指定した書式通りでない原稿は受け付けることができませんのでご注意ください。

<http://www.jafye.org/index2/shippitsuvoroyo2014.html>

(4) 投稿論文の提出先について 論文投稿用のメールアドレスは、[jafye-edit@kokusaibunken.jp](mailto:jafye-edit@kokusaibunken.jp) になります。

(5) 投稿資格および1巻あたりの投稿数について 本誌に論文を投稿することができる者は、共同執筆者を含め、前年度までに入会し3月末までに会費を納入している個人会員および機関会員に限られます。また、1巻あたりに投稿できる論文の数にも定めがあります。詳細は、初年次教育学会誌編集規程第9条をご確認ください。

<http://www.jafye.org/index2/henshukitei.html>

なお、論文の投稿数および採択率を上げ、学会誌の水準を維持することを目的として、第7巻第1号の127頁から藤田哲也前編集委員長による「初年次教育学会誌への投稿論文執筆について」という題目の特別寄稿論文を掲載されております。論文審査の過程について説明するとともに、論文執筆の準備を進める上での留意点や審査の評価基準など、論文執筆前に知っておくべきことが詳細に記されておりますので、論文投稿に意欲をお持ちの方は、必ず、かつ早めに、目をお通しください。

#### 4. 第8回大会 開催報告 大会テーマ：変わる初等中等教育の学びと大学初年次教育

大会実行委員長 菊地 滋夫（明星大学）

初年次教育学会第8回大会は、2015年9月3日・4日の両日、創立51年目を迎えた明星大学（東京都日野市）において開催されました。大きな混乱もなく、無事に大会を終えることができましたのは、学会員のみなさまのご助力の賜物です。この場をお借りいたしまして、心より御礼申し上げます。

大会への参加者は年々増加傾向にあり、この2年間は400名を上回る参加者がありましたが、第8回大会の参加者は一転して過去最少の365名にとどまりました。原因は定かではありませんが、連日の悪天候に加え、大会の開催日程が他の大規模イベント（たとえば、私立大学情報教育協会「教育改革ICT戦略大会」）と重なってし

まったことも挙げられるかもしれません。とはいえ、初日の公開シンポジウム「変わる初等中等教育の学びと大学初年次教育」には351名もの参加があり、企画セッションや自由研究発表での活発な意見交換とあわせて、概ね盛況のうちに終えることができたと思います。

今大会のテーマは「変わる初等中等教育の学びと大学初年次教育」といたしました。高校生までは座学中心の受け身の学習に終始しがちな新入生を、大学にふさわしい主体的な学び手へと移行させることは、初年次教育の重要な目的のひとつです。しかし、中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」（2014年12月22日）に示されましたように、今後数年のうちには大学入学者選抜改革と呼応して学習指導要領も改訂が図られ、大学はアクティブ・ラーニングを軸とした学びをある程度身につけた新入生を迎え入れることとなります。こうした見通しに立ったとき、初年次教育を起点とする大学教育は、これからいかにして「主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し、解を見出していくアクティブ・ラーニング」を推進していくのかが問われることとなります。まさに「変わる初等中等教育の学びと大学初年次教育」をテーマとした公開シンポジウムは、上記答申をまとめられた安西祐一郎氏（元中央教育審議会会長、独立行政法人日本学術振興会理事長）を基調講演にお迎えし、それに続く報告とパネル・ディスカッションでは、小学校と高等学校でアクティブ・ラーニングを組織的に実践しておられる先生方を交えて意見交換を行いました。ここでは、小学校・中学校・高等学校・大学などの学校種を越えた対話と、そうした教育システム全体と社会の対話を継続し、深化させてゆくことの重要性が浮き彫りになりました。詳細につきましては、学会誌第8巻掲載の記録をご覧くださいれば幸いです。

企画セッションにおきましては、ワークショップ7件（前回大会11件）、ラウンドテーブル5件（同2件）が行われ、学会理事が設定するワークショップは減少傾向にある一方で、学会員が企画するラウンドテーブルは増加するという結果となりました。前者は、各テーマの初学者を主たる対象として、初年次教育に対する知識や実践的スキルを向上させることを目的としたものであり、

後者は学会員の自由な情報と意見の交換の場と位置付けられております。したがって、大会の性格が「初年次教育の基礎を学ぶ段階」から次第に「実践を通して得られた知見を共有し、さらに発展させる段階」へと移行しつつある、と見ることもできるかと思われま

す。また、第7回大会より始まった「課題研究セッション」は、今大会では「課題研究 シンポジウム」との名称で開催され、「高大接続の新段階における初年次教育の新たな役割と学会への期待」をテーマに、熱のこもった議論が展開されました。自由研究発表は、前回大会と同数の51件があり、実践に基づく幅広い研究が依然として盛んに行われていることを示す結果となりました。賛助会員からは16件のブースが展覧され、情報交換が活発に行われていたことも合わせてご報告いたします。

なお、上記「課題研究 シンポジウム」の開催日時が、前回大会と同様に他の企画セッション（ワークショップとラウンドテーブル）と重複してしまう点につきましては、次回大会以降への継続課題となりました。日程上の重複を避けるためには、たとえば、第6回大会のように開会期間を3日間とするか、あるいは、（理事会のなかにもひとつのアイディアとしてあったように）ワークショップを大会前日の有料プログラムとして開催するなどの方策が考えられますが、理事会並びに次回開催校におかれましては、引き続きご検討いただきたく存じます。

事前の準備から開催に至るまでは、初年次教育学会の機関会員である明星大学明星教育センター（通称MEC）の教職員と学生が緊密に連携して対応にあたったほか、学内他部署の職員からも力強い応援があり、過去の大会に劣らず円滑な運営ができたものと思います。さらに、本学の学生たちが、非常に多くの参加者の方々よりお褒めのお言葉をいただきましたことは、まことに喜ばしく、誇らしく思われました。今回の大会は、明星大学の財産が、ひとつには初年次教育への全学的な取り組みを通して固い絆で結ばれた教職協働であり、そして、ともに成長を目指す学生たちであることが再確認されたという意味でも、大変に貴重な機会であったと実感しております。

安永悟会長をはじめとする学会理事の先生方、学会事務局の先生方、前回大会の開催校である帝塚山大学のみならず、第8回大会実行委員会のみならず、数え

切れないうほどの有益なご助言をいただきました。重ね重ね、御礼申し上げる次第です。

自由研究発表の座長をお願いした理事の先生方に、発表要旨をお渡しするのが大会前日になってしまったことなど、反省すべき点も多々あります。四国大学で開催される次回の大会がますます充実したものとなるよう、しっかりと引き継ぎを行いたいと思います。

東アフリカで話されているスワヒリ語のことわざに「山と山は出会わないが、人と人は出会う」というものがあります。第9回大会におきましても、それぞれ

の大学で教育と研究の両面で奮闘しておられる初年次教育学会のみなさまが再び出会い、経験と知恵を共有するとともに、いっそう深め合う機会となりますことを祈念いたしまして、第8回大会開催報告の結びとさせていただきます。

(本稿は学会誌第8巻掲載文章の文言を一部修正のうえ再掲したものです)

## 5. 第9回大会について

第9回大会実行委員長 谷川 裕稔 (四国大学)

2016年9月10日(土)・11日(日)の両日、初年次教育学会第9回大会を四国大学(徳島県徳島市)にて開催いたします。本学の教育改革のなかで「初年次教育」を重要な位置づけにしております本学におきまして、本大会を開催できますことは、非常に光栄かつ名誉なことと存じます。

さて、本大会のテーマは、『初年次教育とエンロールメントマネジメント』といたしました。「エンロールメントマネジメント」とは、本大会では「学生が大学に入学し、在籍し、卒業するまでの流れを意識しようとする営み」ととらえます。エンロールメントマネジメントの領域には「学生募集」と「学生の流れ」があるといわれています。それを前提とした上で、「学生募集」には、マーケティング、入学・在籍学生数の予測、入学手続き率、経済的支援、いっぽう「学生の流れ」には学生の定着・継続在籍(retention & persistence in colleges & universities)を同領域の枠組みといたしました。特に後者には学生在籍の理論、学生在籍におよぼす影響、例えば学習準備、カリキュラム、キャンパスの雰囲気、学習支援プログラムなどが含まれ、それらに関わる教育プログラムとして、初年次教育はまさに枢要をなすものであると理解しています。本大会を通して、「エンロールメントマネジメント」に係る議論が深まることを期待しております。

今大会が充実したものとなりますよう、関係者一同、しっかりと運営にあたって参る所存です。多数のご参加を心よりおまちしております。

## 6. 2015年度「初年次教育実践交流会」報告

学会は、各地域における初年次教育の実践活動を振興する場として「初年次教育実践交流会」を2014年度よりスタートさせました。各地の大学・短期大学などで、創意工夫のもと、実際に展開している初年次教育の取組を、その担当者レベルにおいても豊かに交流することをねらいとしています。2015年度に開催した初年次教育実践交流会のうち2つについては、冒頭の巻頭言において、安永会長にご紹介いただいております。ここでは金沢工業大学で2015年12月に開催された交流会の概要をご紹介します。

## ◎ 初年次教育実践交流会（北陸地区）

日 時：平成 27 年 12 月 5 日（土） 12:00～17:00

会 場：金沢工業大学 12 号館アントレプレナーズ  
ラボ 4 階イノベーションスタジオ

テーマ：初年次教育科目における A L（アクティブ  
ラーニング）の実践

主 催：初年次教育学会地域活動活性化委員会

プログラム 司会：渡辺 達雄（金沢大学）

1. 開催趣旨説明 藤本 元啓（金沢工業大学）

2. 実践報告

（1）垣花 渉（石川県立看護大学）：「石川県立看護大学の初年次教育科目『フィールド実習』－地域を舞台にしたスタディ・スキル教育の実践と展開－」

（2）小島 佐恵子（玉川大学）：「玉川大学の初年次教育科目『一年次セミナー102（リサイクル・プロジェクト）』－環境を意識した子供のためのおもちゃ製作－」

（3）○若月 博延，下口 治美，矢澤 建明（金城大学短期大学部）：「金城大学短期大学部の初年次教育科目『日本語表現』－第二専門を目指したチームワークティーチングの試み－」

（4）杉谷 祐美子（青山学院大学）：「青山学院大学の初年次教育科目－『（教育学科）基礎演習』－レポート・ライティング教育における個別学習とグループ学習－」

3. フロアとの意見交換 司会：藤本 元啓

登壇者：垣花 渉，小島 佐恵子，若月 博延，杉谷 祐美子

4. 総括 西村 秀雄（金沢工業大学）

参加者：54 名（高等学校教員：5 名，専門学校職員：1 名，大学教員：42 名，大学職員：4 名，企業職員：1 名，新聞社記者：1 名）

記録：西村 秀雄（金沢工業大学）

**参加者の声：** 今回の実践交流会ではアクティブ・ラーニングや書くことに拘った 4 大学の多様な実践事例が報告された。

報告後の全体に関わるディスカッションでは、まず添削や各種の支援に関する教職員の負担ならびに学生の活用について質疑が行われた。石川看護短期大学の事例では、学生の活用は行っておらず、教員負担の低減のためにクラスの小規模＋複数担当が行われていることが印象的であった。玉川大学の事例では同じシラバスで複数クラスが進行していることから教員間で資料作成の分担や精神的な負担の低減は進んでいるが、TA 自体は大規模クラスでなければ配置されず、支援はボランティアに依存しているとのことであった。

一方、金城大学短期大学部の事例では、ファシリテーション研修、チームティーチング、ループリックの活用を通じて担当教員間での作業分担と義務感とが高まるとの説明があった。青山学院大学の事例では博士後期レベル、修士レベル、専門領域の関連で、可能な範囲での TA の支援を得ているとのことであった。

質問の中からは、教員負担については大学の規模だけでなく、設置者によって教員の負担が相当に異なることが明らかになり、大規模私立大学特有の状況をどのように克服していくのかが改めて課題として露わになったように思われる。

また特に初年次段階で自己 P R も十分できるわけではない学生に論文執筆を求めることの意味、成果についての意見交換が行われ、短期大学においては論文執筆というよりも書くという行為を体験すること、そして文章を書くことがそれほど難しいことではないことを気づかせることが目的であるとの説明があった。一方で、青山学院大学では新学部で必修化された卒業論文執筆やその前提と

しての3年次からのゼミにつなげるために、あえて論文を書くという経験をさせていることが紹介された。

西村秀雄先生の総括を通じて、今回の実践交流会における報告や金沢工業大学での実践例の共通性について、第一に事前準備(制度設計, 事前教育)

の重要性が意識されていること、第二に各ステップでの振り返りの重要性が意識されていること、第三に教育効果の測定・評価の問題が残っていること、そして第四に各大学・地域の実情に即した初年次教育が求められていることが参加者内で共有された。 沖 清豪 (早稲田大学)

## 7. 編集担当より

### (1) 2015年9月より学会役員が新体制に移行しております

2015年の総会において、学会役員が体制が変更されております。詳細につきましては学会サイトをご確認ください。 <http://www.jafye.org/index2.html>

### (2) 賛助会員による広告添付について

賛助会員には、年1回、会員への情報提供の際に、A4で1ページ分の広告・情報提供資料の添付が認められております。本学会ニュースレターでは第4号より、それまでのメール添付ではなく、**学会ウェブの該当箇所** <http://www.jafye.org/index6/nl8.html> に本文(このファイル)および広告データを次号刊行まで掲載することにいたしました。

なお、学会および学会事務局は、これらの広告内容に関与しておりません。

### (3) 実践事例の募集について

ニュースレターに掲載すべき実践事例や事例紹介などを募集しております。掲載ご希望の方は学会事務局にお知らせください。

### (3) 事務局分室設置について

前号並びにその後のメール等でお知らせしております通り、本学会では国際文献社に事務局業務の委託を行っております。問い合わせ等につきましては以下をご確認ください。

事務局分室 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(5937)0473 FAX: 03(3368)2822 E-mail: [jafye-office@bunken.co.jp](mailto:jafye-office@bunken.co.jp)

事務局 法政大学 藤田哲也研究室内

沖 清豪 (編集 広報・情報化委員長)

(2016年3月31日第1版公表)

以上